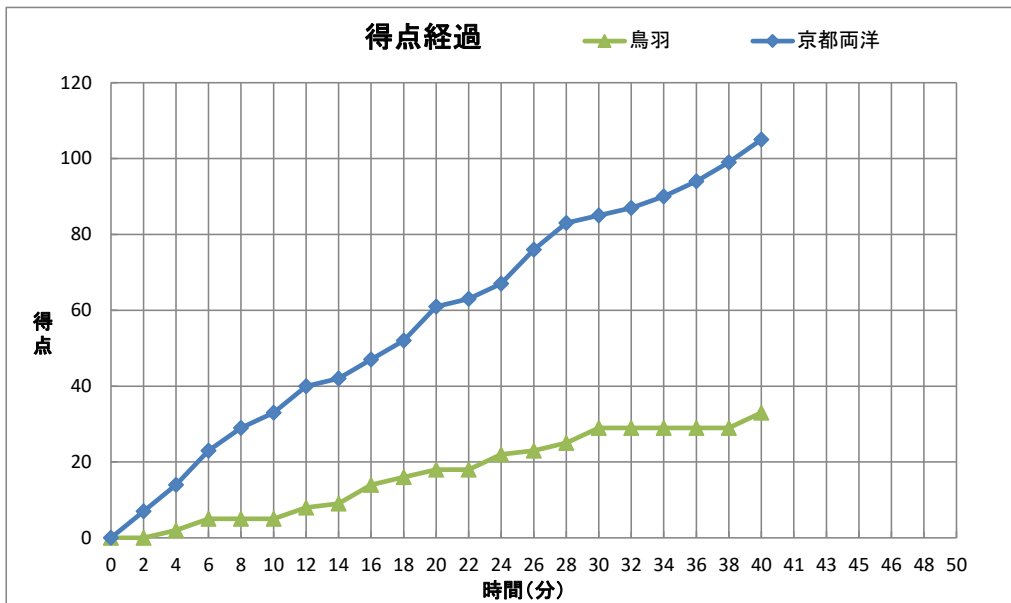




第43回京都府高等学校選手権大会 兼
第76回全国高等学校バスケットボール選手権大会京都府予選

個人トータル表

女子		11月4日				10:30 開始																
決勝リーグ		島津アリーナ京都				B																
鳥羽	33	<table border="1"> <tr><td>5</td><td>1st</td><td>33</td></tr> <tr><td>13</td><td>2nd</td><td>28</td></tr> <tr><td>11</td><td>3rd</td><td>24</td></tr> <tr><td>4</td><td>4th</td><td>20</td></tr> </table>				5	1st	33	13	2nd	28	11	3rd	24	4	4th	20	105	◎ 京都両洋			
5	1st	33																				
13	2nd	28																				
11	3rd	24																				
4	4th	20																				
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則									
* 00	初瀬川 陽春	5	1	1	0	4	1	ユヌス カオサラ ボルワチフェ	0	0	0	0	0									
2	服部 結衣	-	-	-	-	-	3	森口 笑来美	5	1	1	0	1									
3	下川 真葉	2	0	1	0	1	* 8	谷口 心綾	11	0	5	1	0									
* 6	四方 利菜	4	0	2	0	1	* 9	岡田 彩葉	2	0	1	0	0									
11	稲葉 一花	9	2	1	1	1	10	日渡 理緒	6	0	3	0	0									
17	藤井 優奈	-	-	-	-	-	12	中村 璃菜	5	1	1	0	1									
18	小阪 一葉	-	-	-	-	-	* 14	ピクトリア ウビオ コイ	15	0	7	1	1									
* 25	田中 穂純	6	0	2	2	4	18	中野 有佳子	3	0	0	3	0									
27	饒平名 厘	-	-	-	-	-	30	古川 光鈴	7	1	2	0	0									
29	宮本 なつみ	-	-	-	-	-	* 31	城地 あさひ	5	1	1	0	0									
* 31	安達 舞	3	0	1	1	1	49	西川 優月	17	0	7	3	1									
* 32	西田 心美	4	0	1	2	1	58	三田 心春	3	1	0	0	0									
33	和田 寧々	0	0	0	0	0	* 68	木村 香穂	8	1	1	3	1									
47	古市 夕葵子	-	-	-	-	-	69	廣浦 杏	5	1	0	2	0									
75	宮本 のぞみ	-	-	-	-	-	77	林 英美	13	0	6	1	3									
コーチ	富山 唯					0	コーチ	吉田 聡					0									
Aコーチ	川端 奏絵						Aコーチ	甲良 泰明														
合計		33	3	9	6	13	合計		105	7	35	14	8									
主審: 大溝 貴広 副審: 紀平 武宏 副審: 小柿 茉智子																						



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	4:15	25:12	:	:	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:

[戦 評]

ウィンターカップ京都府予選女子決勝リーグ第2試合の鳥羽対京都両洋の対戦。
 第1Q、両チームマンツーマンで試合開始。京都両洋は#31の3Pや#8ミドルシュートなどで加点していく。対する鳥羽は京都両洋の高さの前になかなか得点できない時間が続くが#6のミドルシュートで得点する。中外バランスよく得点を重ねていく京都両洋が残り5分で20対4と一気にリードを広げる。そのままリードを広げた京都両洋が33対5とリードして第1Q終了。
 第2Q、流れを変えたい鳥羽は、#00の3Pで加点するが京都両洋の堅い守りをなかなか突破できない。京都両洋はインサイドを攻め続けてリバウンドやインサイドシュートで力の差を見せつけていく。さらに京都両洋は#12#30の3Pなどで攻撃の手を緩めない。インサイドでリバウンドの強さを見せた京都両洋がさらにリードを広げ、61対18として後半へ。
 第3Q、鳥羽はアウトサイドシュートで得点を狙っていくがなかなか決まらない。京都両洋は#14#8がゴール下で圧倒し残り時間5分73対23と点差を50点とし、試合を決定づける。鳥羽は#25のゴール下#11の3Pなどで対抗するが、京都両洋は控えメンバーを出す余裕を見せ、ハードなディフェンスで隙を見せない。85対29の京都両洋大量リードで最終Qへ。
 第4Q、鳥羽は諦めずに最後までハードにディフェンスをし、失点を食い止めるが、京都両洋の粘り強いディフェンスに対し得点を奪うことができない。拮抗した展開が続くが京都両洋が#49のゴール下で徐々にリズムを作っていく。鳥羽は無得点の時間帯が続くが#25#11がなんとか喰らいつく。最後までディフェンス、リバウンドで圧倒した京都両洋が105対33と大勝し、成績を2勝とした。